

発行:一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団 (キッズファム財団)

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

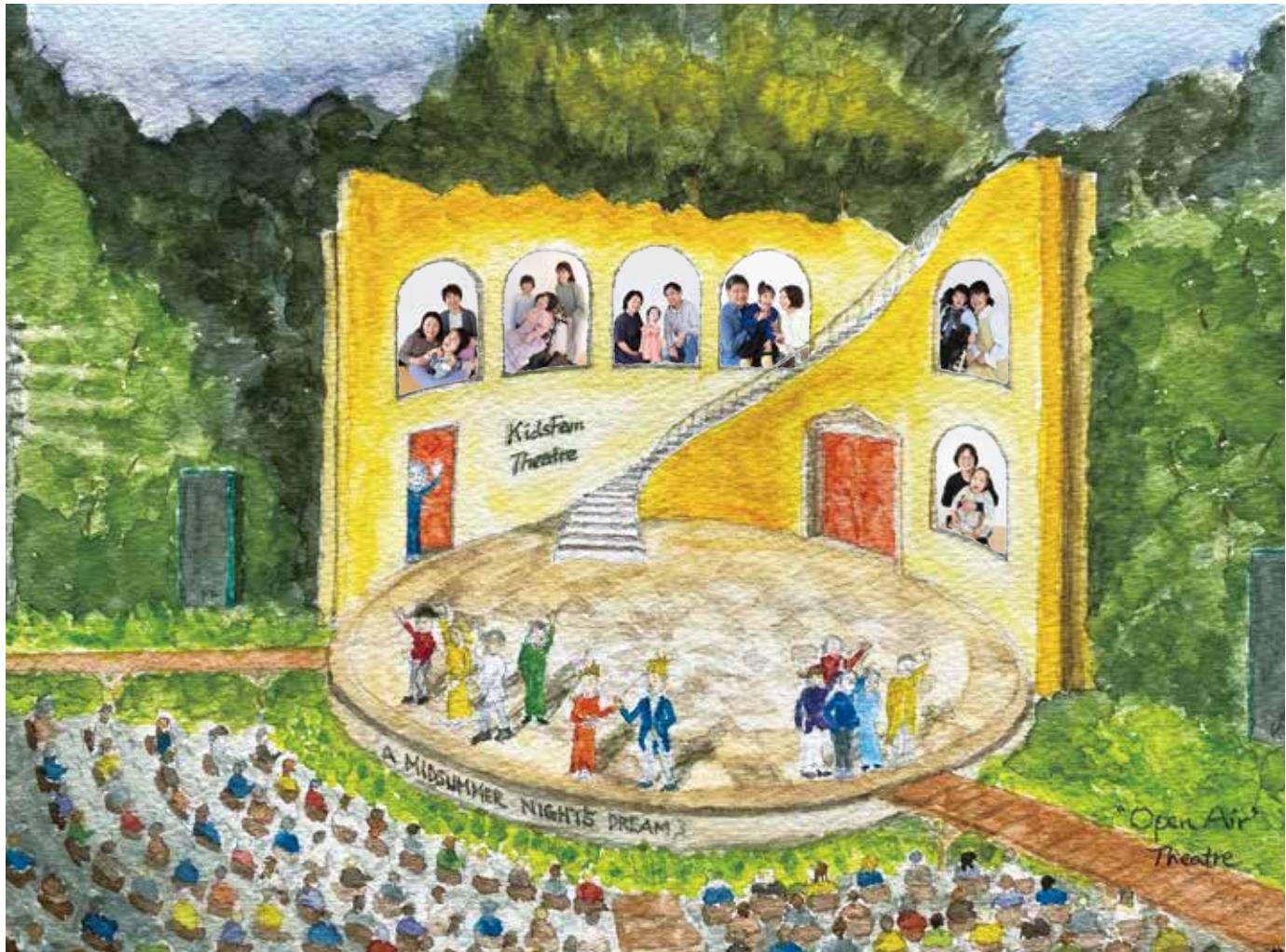


写真:中村彰広

ご挨拶

いかがお過ごしでしょうか。ロシアとウクライナの戦争に加えてイスラエルとiranがお互いの国を攻撃したり、激動の

世界情勢は終わりが見えてきません。プーチン、ゼレンスキー、ネタニヤフ、ハネメイ師、男たちの難しい顔が浮かびます。

私の最も尊敬する小児科医、松田道雄先生(1908~1998)の著書に『私は女性にしか期待しない』という岩波新書(1990)があります。小児科医ならではの視点を感じられ、三十年以上前の出版物なのに読む度に男としていろいろ考えさせられます。

日赤の病院長で唯一人の女性である東京かつしか赤十字

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

母子医療センター院長の三石知左子さんから第一句集『小さきもの』が送られてきました。彼女は俳句つながりの小児科医です。この中にも松田先生の新書と同じように考えさせてくれる俳句がありました。

頑なに前例踏襲梅雨寒し
出る杭に男の嫉妬半夏生

二句とも働きにくい男社会で活躍する女性の本音です。「梅雨寒」は梅雨冷とも言い、「半夏生」は半夏草、別名、烏柄杓(カラスビシャク)が咲く頃にあたる七十二候の一つ(夏至の三候)で両方とも夏の季語です。

行き詰まってから頼るというのも情けない話ですが、世の男たちが女性の意見をもっと重く受け止めなければならない時なのではと思う昨今です。

☆財団の主な活動のご紹介

■きらきらキッズフェスタ ～音楽と遊びの「わ」をつなごう

1月27日(土) 大蔵第二運動場体育館にて、障がいのあるなしに関わらず、子どもも大人も心から楽しめる場、安心して過ごせる場になることを願い、地域の団体や学校の協力を得て世田谷区と一緒に開催しました。300名以上のご来場があり、多くの皆様にお楽しみいただきました。

最初にイベントの主旨と内容を紹介し、また当財団の活動を紹介する動画を流しました。

演目のトップバッターは山野小学校の合唱団。可愛く元気な歌声に会場の皆さんも思わず笑みがこぼれました。



次は、砧中学校・吹奏楽部。中学生とは思えない迫力のある演奏に魅了されました。会場からおきたアンコールに応えて更にもう一曲。とても楽しい演奏でした。

3番手は、クラウンワン・ジャパンの皆さんによるパフォーマンス。赤鼻をつけた楽しいクラウンたちに引き寄せられて、自然に会場の子どもたちが参加しました。



4番手は、成育PICU音楽隊（国立成育医療研究センターの医師・看護師・薬剤師によるユニット）。おなじみのディズニーやジブリの曲をピアノとバイオリンとフルートで素敵に奏でてくれました。

最後は、サレジアン国際学園世田谷中学高等学校・合唱部。透き通るような綺麗な歌声に、皆さんウットリでした。大人のみならず、子どもたちも真剣に聴き入っているのが印象的でした。



世田谷区スポーツ推進協議会によるボッチャ体験コーナーでは、小さなお子さんから中学生、高校生、そして大人まで、歓声が絶えませんでした。

レモネードスタンドは、ご自身も病気を持つ橋本さんが開店。手作りのレモネードを販売し、利益を小児がん応援の活動に寄付をするということでした。

また、財団ブースの出展もありました。写真展示はじめ、ミニバザーコーナーは、当財団のボランティアメンバーが担当。10円玉を握りしめた子どもたちが嬉しそうにお買い物していました。



サレジアン国際学園世田谷中学高等学校と砧中学校の生徒さんが、受付、会場の飾り付け、誘導のボランティアをしてくれました。皆さんの優しい気持ちで、会場が温かい雰囲になりました。

また、株式会社ロッテ様よりチョコレートとガムをご提供いただき、ご来場の皆さんにお持ち帰りいただきました。

「こういったイベントで地域が繋がること、重い病気を持つ子どもと家族が普通に出かけられることの意義が大きい」とのメッセージも寄せられ、たいへん好評をいただきました。来年2025年2月15日（土）に同じ会場にて第2回目を開催する予定です。詳細は決まり次第ウェブサイトに掲載します。



最後になりましたが、ご協力とご尽力をいただきました世田谷区や成育医療研究センターはじめ地域の皆様に心より御礼申し上げます。

きらきら キッズフェスタ
音楽と遊びの「わ」つなごう

開催日：2024年1月27日(土) 10時～14時(予定)
会場：大蔵第二運動場体育館（東京都世田谷区大蔵2丁目10番地）

主催：世田谷区スポーツ推進協議会

協賛：株式会社ロッテ

出展：サレジアン国際学園世田谷中学高等学校、砧中学校、成育PICU音楽隊、ボランティア、地域の団体

問い合わせ先：
電話：03-5494-1200 (午前10時～17時)
Eメール：info@kinderfesta.jp
ウェブサイト：<http://kinderfesta.jp>

■砧公園スペシャルデー

砧公園（みんなのひろば）にて、3月17日と20日の2日間にわたって開催されました。インクルーシブな遊具広場「みんなのひろば」の開園4年目を記念したイベントで、キッズファム財団は20日の「音楽の日」に活動紹介ブースを出展しました。

ファミリーフォトプロジェクトで撮影した家族写真やポスターを展示し、ブースを訪れたご家族やお子さんに「重い病気を持つ子どもと家族」のことを知っていただく良い機会となりました。



また、以前キッズファム・チャリティライブにご出演いただいたご縁で、「ノブタク」にも出演していました。

「ノブタク」は、ヴァイオリン：本間惟彦（ノブ）とフルート・ピアノ：小柳拓人（タク）からなる、自閉症のヴァイオリン・フルート・ピアノデュオグループです。

春の日差しのなか、車椅子で来られたお子さんとご家族はもちろんのこと、大勢の方に楽しんでいただきました。その素晴らしい演奏に、「ブラボー！！」という声もあがりました。他にも、キッズダンス、創作エイサー、阿波踊りなどの楽しいパフォーマンスが続きました。

楽しいイベントを企画していただいた「公益財団法人東京都公園協会」「砧公園サービスセンター」「arTeaTreat（NPO法人子育て支援グループamigo）」のスタッフの皆様、ありがとうございました。

を借りてファミリーフォトプロジェクトで撮影した家族写真を展示しました。

昨年8月に続き2回目の実施となりましたが、たくさんの方が写真を観てくださいました。主催者・出演者の皆様にもご覧いただき、「本当にいい写真ね」「これからも応援ていきますね」とあたたかい言葉をいただきました。

快く展示をご許可くださったNPO法人日本子守唄協会様、ご覧いただいた皆様、展示をご快諾くださったご家族の皆様に心より感謝申し上げます。

■スペシャルキッズセンターの集い

3月16日、大阪府茨木市の藍野大学で行われた「第8回スペシャルキッズセンターの集い」に参加しました。スペシャルキッズ（重い病気や難病、障がいなど広い意味で課題を抱える子ども）



をサポートする団体や個人が、学習・交流や情報交換する「集い」です。

今回のテーマは“もう一度動き出そう～スペシャルキッズがいきいきとするスキルを学ぶ～”でした。基調講演は同大学短期大学部学長の足利学先生による「支援者が元気で支援を続けるために～セルフケアを中心に」、特別公演は財団とも関係の深い、遊びリパークリノアたまプラの安田一貴さんによる「すべての子どもたちへ、ワクワクドキドキ楽しい遊び体験を届けよう！」でした。参加者の笑顔とあたたかさが心に残る集いでした。

■ BST/キッズファム コンサート

11月29日、港区麻布台にあるブリティッシュスクール東京（BST）において、BSTの生徒皆さんによるクリスマスコンサートを共同開催しました。今回はオープンしたばかりの麻布台ヒルズ内、しかも学校が新たに移転したばかりということもあり、テスト開催として数組の重い病気を



持つ子どもとご家族にお越しいただきました。

生まれて初めてのコンサートというご家族がいたり、音楽に合わせて身体を動か

したり、楽器をならしたり、BST関係者とご家族の皆さんのがこころがひとつとなる素敵な時間でした。また会場ではデスクをお借りして財団紹介も行いました。

■スミセイ キッズフォーラム 写真展示

2月9日、板橋区立文化会館において、NPO法人日本子守唄協会が主催する「スミセイ キッズフォーラム～親子の絆の子守唄～」が行われ、その会場ロビー



■FITチャリティ・ラン

FIT チャリティ・ラン（英名：Financial Industry in Tokyo For Charity Run）は、2005年に金融サービスおよび関連事業を展開する企業で働く有志が設立した団体で、生活を営む社会の役に立つ活動に業界全体で取り組むことを目的とし、地域に根ざした社会的に意義ある活動をしています。

FITチャリティ・ランはさらに、金融業界が一丸となって社会貢献に取り組む姿勢を示すこと、各企業・グループ内でチームワークを強化すること、業界内のつながりを促進することなども活動の目的に掲げています。



第19回「FITチャリティ・ラン2023」は、12月10日(日)に明治神宮外苑周辺道路において開催されました。92社からランナー、ウォーカー、ボランティアとして4,500人以上が参加し、寄付金総額53,662,400円に上りました。当財団理事もウォーカーに参加しました。



FITチャリティ・ラン2023実行委員会は、本年度の支援先として当財団を含む8団体を選出しました。支援先団体は、関東において、FITの理念に沿った地域活動を行っている非営利団体の中から選出され、寄付金は各支援先団体に均等額で贈呈されます。

さらに特筆すべきことはFITでは、集められた寄付金および協賛金等の約90%を、支援先団体へ寄付しています。これは、FITチャリティ・ラン実行委員会が有志による無償の奉仕活動によって運営されていることや、イベントの運営ならびに実施に必要となる資金および物資の多くが企業からの寄付によって賄われているからです。

そしてFIT2023寄付金贈呈式が2月29日、千代田区の赤坂プリンス・クラシックハウスで行われました。共同実行委員長の挨拶、FIT2023のご報告に続いて各団体によるスピーチ（活動内容、資金使途）、全体写真撮影に続いて懇親会が行われ閉会となりました。



FITからの寄付金を当財団の活動に有効活用していきたいと思います。FIT関連の皆さま、ありがとうございました。



ご家族からのお便り 「成人までのあゆみ」

娘の莉奈は2005年3月10日、成育医療センターで産されました。すぐにNICUへ。診断された病名は『シンツエル・ギディオン症候群』でした。2歳まで生きられるかどうかと言われました。娘はNICU、私は退院。泣いている日が多くて。娘は一人、病院で頑張っているのに泣いてばかりいてはいけないと思い、同じ一日なら笑顔で過ごそうと思いました。そして私は仕事も少しづつ始めました。

2~3歳で水頭症の手術を何度もくり返し、約一年間入院しました。特別支援学校入学時、舌根沈下がありエアウェイを付けていました。埼玉県ではエアウェイの再挿入が禁止で、学校では看護の先生がいても出来ないという事で通学できず、県の教育委員と一年間話し合い、一年遅れての訪問部入学となりました。在学中も何度か入院しました。左腎臓摘出したり、気管切開したりといろいろありました。先日元気に特別支援学校を卒業しました。

もみじの家へは早い時期からお世話になりました。看護師さん、介護士さんの明るさにたくさん楽しませていただきました。そして18歳最後の月、もみじの家の利用も最後となり、ファミリーフォトプロジェクトをお願いしました。成人式の前撮りです。財団の方々のおかげですごく楽しい

撮影会でした。素敵なアルバムにしていただきありがとうございます。

私達は埼玉県の北部に住んでいます。医療の過疎化と言われている地域です。娘は重度の障害を持ち、寝たきりです。目も見えません。耳も聴こえません。そんな障害児・者を診てくれる病院はなかなか無いのが現状です。それでも現在は訪問看護やディサービス等、いろいろな方々にお世話になっています。幸い近くに親達も住んでいるので、すごく助かっています。

今まで出会えた方々に感謝し、これからたくさんの方々に出会えるのを楽しみに、元気で笑顔を忘れずに頑張っていきたいと思います。

山下部 敦子様



ファミリーフォトプロジェクトでの家族写真



英國だより (11)

今年もやっと春が到来いたしました。我が家の中庭の花々もやっと待ち焦がれていた気候がやって来て美しい花々が顔(花)を見せ始めました。チューリップ、白や紫のリラの花、白のさくらんぼの木、つつじ、りんごの花等々が一斉に咲きだして今年も冬は終わったと実感致しました。ロンドンでは毎年5月に開催される「お花の祭典」 チェルシー



皆様、はじめまして

このたび、もみじの家ハウスマネージャーになりました佐藤謙と申します。

もみじの家が2016年4月に開設されておりますが、開設時の想いや、前任の内多ハウスマネージャーやスタッフによる実績を踏まえながら、さらなる発展や充実させ、もみじの家のような施設を全国各地に広げることに貢献したいと思います。

私は、民間病院の事務職を15年経験した後、2019年9月より成育医療研究センターにて広報企画室長などを経て、この4月からもみじの家ハウスマネージャーになりました。

学生時代は、工学部にて「ヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源の効率性や管理（IE、QC）」を基本とする経営工学という分野を学び、2000年頃には日本訪問看護振興財団（現 日本訪問看護財団）の主任研究員をしていました。そのときの研究を紹介すれば、「訪問看護ステーションとヘルパーステーションの機能連携に関する研究事業」では、安全を確保しながら質の高いケアを提供していくため、看護・ヘルパー間の連携などに関することでした。

また、「訪問看護ステーションにおける多機能設置モデル事業」では、訪問看護ステーションの特徴を生かしながら、病気・障害をもった人や家族介護者を対象とし、医療・介護保険制度外の訪問看護サービスにあたる「居宅でない通学施設・通所施設にいる間に行う訪問看護」「子育て支援サービス」等に対し、全国8箇所の訪問看護ステーションにてモデル事業を実施し、評価などをしていました。もみ

喜谷 喜夫



フラワーショーが春の到来を告げるのですが今年は5月21日から25日まで開かれます。このガーデンショーは入場料も高く、王立園芸協会会員でないと入場券も手に入れにくく貴重なイベントで街も盛り上がります。

在英邦人の社会では、6月下旬の天皇、皇后両陛下の国賓としての訪英が正式に両国関係機関から公式に発表されたのでこれから盛り上がってゆくものと思います。6月下旬には英国王室関係でもガーター勲章授与セレモニーやアスコット競馬など英国特有なイベントも多くどこまでご参加頂けるか存じませんがこれを機会により多く英国を知って頂きたいと思います。

また箱根駅伝の100周年にちなんで、UK駅伝が本年6月24日に開催されます。日本で長い歴史を持つ伝統的スポーツイベントの駅伝が、初めてUKに上陸します。レースはオックスフォードから始まりウィンザーがゴールの72マイルの美しいコースです。そしてUK駅伝の利益は全てチャリティに寄付されます。今年は石川県の能登半島地震と英国のスポーツ関連のチャリティに寄付する予定のことです。

わが「英國MOMIJI」もファウンディング・パートナーとしてこのイベントに協力しています。

国立成育医療研究センター もみじの家 ハウスマネージャー 佐藤 謙



左から佐藤（ハウスマネージャー）、平良（事務員）、楠（事務員）
じの家で参考になりそうなことを取り組んでいたなあと感慨深い気持ちになり、昔は今の鏡であることを実感しております。

従いまして、私の少ない経験と知恵を絞り、ぜひとも皆様のご助言やご指導を賜りながら、もみじの家ハウスマネージャーとして努力をしたいと思いますので、キッズファム財団の皆様のご協力・ご支援をお願いしたいところでございます。最後に、私自身、人見知りのため、皆様から遠慮なく声掛けいただき、実際にお話しできることを楽しみにしております。まだまだ経験不足でございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

■ 令和5年度事業報告

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用者及び家族へ支援
 - ①施設利用料の支援(長期利用支援を含む)…支援件数173件
 - ②ファミリーフォトプロジェクト…19件 (9月より再開)
 - ③タオル無償提供…もみじの家利用全家族
 - ④キッズファム・カフェの実施…0回(もみじの家からの許可待ち)
 - ⑤チャリティライブ…6回/年(偶数月)
 - 第26回:4月12日 パネルシアター及び絵本の読み聞かせ
 - 第27回:6月 8日 NPO法人朴の会“音楽とかけ隊”による演奏
 - 第2回ミュージック・ジャンクション(7施設参加)
 - 第28回:8月24日 収録→8月26日~配信 アニメソング
 - 第29回:10月18日 収録→10月21日~配信 イベントパフォーマンス・紙芝居
 - その他:11月29日 プリティッシュスクールイン東京でのクリスマスコンサート
- 3月20日 砧公園スペシャルデーにおける出演協力
- ⑥各種イベント等への招待
 - ・アロマボディトリートメント優待 …9月より再開 利用者6名
 - ・えんどつ町のブルー“光る絵本展”…6月23日 国立成育医療研究センター前庭
 - ・伊勢原こども馬フェス…11月23日、専修大学伊勢原総合グラウンド
- 2) 在宅医療ケアを必要とする子どもとその家族を支える事業を実施する団体への支援に向けた検討
 - ①重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設/団体との連携
 - ・チャリティライブ(ミュージック・ジャンクション)を通しての連携(7施設)
 - ・小林製薬青い鳥財団贈呈式・交流会…12月1日、第一ホテル東京
 - ・認定特定非営利活動法人ファミリー・ハウス「タオルのくま作り」…12月3日グロースリンク勝どき
 - ・“みんなの交流会”(砧地区で福祉活動を行っている団体の交流会)…2月8日、山野区民集会所
 - ・全国こどもホスピスサミット…2月23日、はまぎんホール
 - ・FIT寄付金贈呈式・懇親会…2月29日、赤坂プリンス クラシックハウス
 - ・第8回スペシャルキッズサポートーの集い参加…3月16日、藍野大学
 - ②医療型短期入所サービス拡充を希望する全国活動への助成
 - ・全国医療のケアライン(アイライン)全国フォーラム開催支援
 - 11月3日 東京国際フォーラムにおいて全都道府県のアイライン登録団体が参加して開催 財団事務局3名が運営ボランティアとして参加

2. 啓発事業

- 1) 啓発目的としたイベントの開催
 - ①盆踊り大会(夏まつり)…8月5日、国立成育医療研究センター中庭
 - ②“さらさらキッズフェスタ”…1月27日、世田谷区大蔵第二運動場体育館
 - ③砧公園スペシャルデー“音楽の日”…3月20日(財団紹介ブース)
- 2) 写真展の開催
 - ①国立成育医療研究センターロビー…4月1日~10月31日、12月1日~19日、12月22日~2月29日
 - ②高崎健康福祉大学9号館学生ホール…5月26日~31日
 - ③NHK放送技術研究所ギャラリー…7月3日~26日
 - ④ハクルート社10周年レセプション…10月4日、英国大使公邸
 - ⑤世田谷美術館区民ギャラリー…10月24日~29日
 - ⑥“ここ・からまつり”…11月12日、新宿ここ・から広場
 - ⑦キッズフォーラム～親子の絆の子守唄～…2月9日、板橋区立文化会館
 - ⑧映画「不屈の夏」上映講演会…2月23日、逗子文化プラザ
- 3) 財団の活動紹介
 - ①通信の発行 2回/年度 (6月、12月)
 - ②ウェブサイトの活用
 - ③SNSの活用(Facebook、Instagram等)
- 4) 書籍「ひとすじの光」の販売及び寄贈
 - ・全国の肢体不自由児特別支援学校(約388校)に寄贈

3. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
 - 通信送付時や各種イベント等を通じての活動
 - 2) 企業や団体への働きかけ
 - 3) Tポイント募金、お宝エイド、募金箱の活用
 - 4) ウェブサイトの活用
- ## 4. その他
- ・ロングボトム駐日英國大使のもみじの家訪問(9月11日)への働きかけ
 - ・英國のコンサルティング会社「ハクルート」との連携による活動

■ 令和6年度事業計画

1. 支援事業

- 1) 重い病気を持つ子どもと家族への支援
 - ①“もみじの家”等短期滞在施設利用料の支援(長期利用支援を含む)
 - ②ファミリーフォトプロジェクト
 - a. “もみじの家”利用中の撮影
 - b. “もみじの家”以外での撮影会の実施
 - ③“もみじの家”利用中のタオル無償提供
 - ④“もみじの家”での「キッズファム・カフェ」…“もみじの家”より許可が下りたら再開
 - ⑤子どもと家族を対象としたコンサート…4回/年
 - ⑥ユニバーサルベースボール大会
 - ⑦イベント等への招待等
 - ・美術館招待
 - ・アロマボディトリートメント優待

- 2) 重い病気を持つ子どもとその家族を支える事業を実施する団体への支援
 - ①重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
 - ②重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体への助成

2. 啓発事業

- 1) 啓発目的としたイベントの開催
 - ・“さらさらキッズフェスタ”他
- 2) 写真展の開催
 - ①国立成育医療研究センターロビー
 - ②世田谷美術館区民ギャラリー
 - ③NHK技研ギャラリー
 - ④その他
- 3) 財団の活動紹介
 - ①通信の発行 2回/年度 (6月・12月)
 - ②ウェブサイト・SNSの活用
- 3) 募金活動
 - 1)個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
 - 2)企業や団体への働きかけ
 - 3)Vポイント募金(旧Tポイント募金)・お宝エイド・募金箱の活用
 - 4)ウェブサイトの活用



令和5年度決算報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
I. 経常収益		
1. 基本財産運用益	60	
2. 受取会費	2,548,000	パートナー会員(10,000 × 141口) サポーター会員(3,000 × 146口) 法人会員(100,000 × 7口)
3. 受取補助金等	286,443	
4. 受取寄付金	15,521,545	
5. 雑収益	683,410	書籍販売、お宝エイド等
経常収益計	19,039,458	
II. 経常費用		
1. 事業費	6,116,727	
1) 支援事業費	2,894,748	利用料支援、チャリティーライブ等
2) 啓発事業費	3,221,979	写真展、通信、ウェブサイト等
3) 研修事業費	0	
2. 管理費	10,121,113	
経常費用計	16,237,840	
経常外費用計	0	
当期一般正味財産増減額	2,801,618	
当期指定正味財産増減額	△118,443	
正味財産期首残高	39,558,640	
正味財産期末残高	42,241,815	



昌代さんと私　－第2回－

全国社会福祉協議会会长　村木厚子

喜谷昌代さんに初めてお目にかかったのは10年ほど前、ご夫君と一緒に厚生労働省を訪ねて下さいました。

小柄な、白髪の、凛とした姿が印象的。重い病気を持つ子どものためのホスピスをつくりたい、国に予算はないようなのでそれを寄付をしましょうというお話をでした。英国のオックスフォードにある世界初の子どものためのホスピス、ヘレン・ダグラスハウスで長年ボランティアをされた昌代さんはこんな施設が日本にも必要だと考えたのです。これが、もみじの家が生まれる第1歩でした。

ホスピスは余命の短い人が最後の時間を過ごす場所であり、つらく悲しい場所なのではないかという私の思い込みは、昌代さんに連れられヘレン・ダグラスハウスを見学したことですっかり変わりました。子どものホスピスは、重い病気や障害を持つ子どもと家族が「楽しい時間」を過ごすための場所、玄関に飾られたたくさんの子どもたち



ヘレン・ダグラスハウス

の笑顔の写真がそれを教えてくれました。そこで過ごし、その後長く生きた子も、そうでなかつた子も、みんな素晴らしい

笑顔。遊びや音楽など子どもたちがやりたいけれど家庭ではなかなかできない活動を行って子どもたちの成長を助ける「もう一つの家」という役割がよくわかりました。



当時の厚生労働省次官室にて

この時、私は図々しく喜谷家に泊めていただき、昌代さんとたくさんお話をすすめることができました。大学卒業後日本航空の客室乗務員として勤務したこと、当時、ハワイ便に乗ると、ハワイでの滞在時間が長く、それを有効活用して飛行機の操縦を習ったという話に、ますびっくり。結婚後赤十字のボランティア活動を始め、ご夫君の転勤に伴って、ベトナム、タイ、香港、ドイツ、ポーランドなどで活動、戒厳令のひかれた極寒のポーランドに唯一の女性緊急援助隊員として薬や食料をトラックで運んだり、ベルリンの刑務所で保護司として男性受刑者との面談、外出の同行もしたという話をドキドキしながら伺いました。

「楽しく暮らす。楽しいことの中で、その楽しみを他の人にも分かち合う」という昌代さんの言葉を忘れないようにしたいと思います。

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2023.10.1～2024.3.31)

敬称略

安西 恵美子・川勝 美樹/畠上 恭彦/青野 佐代子/相澤 芳江/秋山 正子/朝野 春美/伊藤 雅彦/伊藤 啓子/井伊 知美/伊野 公基/石田 朋靖/磯野 悅子/茨木 信夫/岩下 奈々絵/岩間 陽一郎・有喜子/岩佐 敏子/五十子 敬子/石原 晶世/石原 道子/池上 典子/狐塚 七重/上村 恵一/上田 照子/植田 宣子/内田 幸子/馬上 英実/梅木 孝治/太田 由加里/岡崎 伸/奥芝 彰子/奥野 英子/岡部 和子/折田 正樹・昌子/大瀧 憲一/萩原 美穂/加我 牧子/加藤 信子/亀山 厚也/金田 永子/片山 成美/岸田 淑子/岸本 晃子/喜山 雄介/喜谷 喜夫/鬼頭 とし子/菊地 博信/熊谷 一夫・澄子/倉田 潔/栗原 幹雄/栗原 義和/込田 邦子/児玉 桂子/児玉 美喜子/小林 淳一・智子/小峰 万木子/小林 京子/佐藤 マリ子/篠原 陽子/柴田 ひさ/柴田 敏子/島谷 美成・恵以子/鎮目 美奈子/砂田 紀子/杉浦 花音/鈴木 文子/鈴木 祐子/高田 益江/鈴木 洋之/高橋 昭彦/滝本 悅子/竹内 晴子/竹本 則男・佳代/田代 洋子/田添 敦孝/高橋 貞二郎/高梨 絹代/土屋 幸子/アンドリュー ティエナン/土居 和子/土肥 仁/富田 起美代/永峰 涼子/中居 文子/長島 日出男/長友 玲子/原田 京子/日比 淳子/日野 克美・陽子/日高 淑子/樋口 浩康/平田 恭信/廣田 ゆき江/古屋 京子/藤井 みすず/藤岡 康/福神 規子/澤村 明子/帆刈 吾郎/堀江 ひろ子/堀内 敬子/松永

泰子/松谷 明美/松尾 三枝子/増田 美鶴/増田 とも子/皆川 幸洋/三宅 純子/村尾 奈央/村木 厚子/森田 葉子/森部 加奈子/森部 由紀/山羽 啓子/山口 栄一/山田 史郎/山本 麻知子/八鍬 瑛子/矢花 佐夜子/横山 房子/吉田 三恵子/吉田 明記/吉田 康子/ファリーダ ラーマン

イニシャル 5名 RN/MY/KI/CY/KK 匿名 12名
お宝エイド 本間 桃子/折田 昌子/植松 葉子/渡辺美佐子
匿名 2名

ご寄付いただいた企業・団体

日本大学櫻丘高等学校/日航スチュワーデスOG会寄付基金/聖心女子学院みこころ会社会福祉部/聖心女子学院もゆる会/世田谷稻門会地域サポート活動部会/首都開発株式会社/公益社団法人程ヶ谷基金/公益財団法人大林製薬青い鳥財団/海井医科器械株式会社/F I T チャリティ・ラン2023実行委員会

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいている。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせてもらっています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- | | | |
|-----------|----|----------|
| ① 法人会員 | 1口 | 100,000円 |
| ② パートナー会員 | 1口 | 10,000円 |
| ③ サポーター会員 | 1口 | 3,000円 |

※1口から何口でもお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがとうございます。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替

00140-0-420461

2. 三菱UFJ銀行 成城支店

普通 0233800

3. クレジット決済 (QRコード)

★ 三菱UFJ銀行に初めてご送金いただいた方は、
メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。



ーお知らせー



★写真展「“いのち”輝く」のご案内

- ①2024年8月5日～30日 NHK技研ギャラリー
 - ②2024年10月1日～6日 世田谷美術館区民ギャラリー
- 詳細は財団ウェブサイトでご案内いたします。

★Vポイント募金にご協力お願いします。従来のTポイント改めVポイントをお持ちでしたら、キッズファム財団に募金いただくことが可能です。

“Vポイント募金”で検索ください。

<https://donation.tsite.jp>



“Friends of KidsFam”

財団の仲間たち①

世田谷区砧まちづくりセンター所長 石綿真人

こんにちは！きぬた福祉の相談窓口です。

世田谷区では「身近な福祉の充実」に特に力を入れています。砧まちづくりセンターと同じ建物には砧あんしんすこやかセンターときぬた地区社会福祉協議会事務局が同居しています。ここに山野児童館を加えた四者で「きぬた福祉の相談窓口」として福祉事業に取り組んでおり、キッズファム財団ともコラボして様々なイベントを実施しています。

砧まちづくりセンターには様々なご相談が寄せられるのですが、最近ではご高齢の方からのスマホの使い方や特殊詐欺への対策などの相談が寄せられることが多くなりました。困った時はぜひご相談ください。



*新シリーズ「財団の仲間たち」です。財団と一緒に活動する皆さんに登場いただきます。

編集後記

キッズファム通信No.15をお届けします。1月に、「きらきらキッズフェスタ」というイベントを開催し、地域の学校、団体、ご家族が音楽やあそびを通じて一緒に楽しい時間を過ごしました。コロナ禍では開催自体が難しかったですが、皆さんのが一つになれることができたことがたくさんありました。来年も開催の予定です。

本号の表紙は、ロンドンの中心部にある「リージェンツパーク」で毎年夏に開かれる屋外シアターをテーマに描いてみました。シェークスピアの喜劇「真夏の夜の夢」・・雰囲気を味わっていただけたら幸いです。ご家族も窓から楽しそうに観ています。（大川）



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団 (キッズファム財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター内

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください